

高齢者の運転と公共交通を考えるフォーラム(駒ヶ根市)

箕輪町セーフコミュニティ推進協議会「交通安全対策委員会」及び福与区セーフコミュニティ推進協議会などでは、高齢者の安全と足の確保についての検討を行っていることから、みだしのフォーラムに参加して学習しました。

なお、駒ヶ根市は平成 25 年から市のコミュニティバスを廃止して、割り引きのあるデマンドタクシーを導入しています

- 開催日時 平成 30 年 1 月 19 日(金)午後 1 時から午後 3 時 30 分
- 開催場所 駒ヶ根駅前ビル「アルパ」多目的ホール
- 参加者 駒ヶ根市民を中心に 100 名を超える参加者で大半は高齢者
- 開催概要

講演「少しでも長く安全運転を続けるために」

特定非営利活動法人 高齢者安全運転支援研究会理事 鳥塚俊洋 氏



パネルディスカッション

「運転はいつまでしていいの? やめたらどうなるの?」



が行われました。

駒ヶ根市のデマンドタクシーは、家まで来るが、行き先は限定されているため、出席者からは

「昔の駒ちゃんバス(コミュニティバス)は、福利厚生や楽しみに使えた。現在のデマンドタクシーは、食料確保や医療のためのもので生命維持の為だけのものという感じがする。是非検証してほしい。」

という発言があり、多くの拍手があった。

○現在の駒ヶ根市の公共交通

別添資料参照「こまタク利用案内」 ～自宅から特定施設まで、片道 400 円

「タクシー利用のご案内」 ～割引タクシー券あり

「免許自主返納」 ～こまタク乗車券 1 万円交付

○講演要点

- ・車の安全性向上により事故の全体数は減少しているが、75 歳以上では死亡事故が急増し、死亡率も高い。
- ・ペダルの踏み違いは、焦っている時、二つの行動を行っている時(料金支払い、赤ちゃんをあやしている時等)が多い。
- ・免許返納は、タイミングが大切。→別添資料
- ・免許返納後の「足」は、企業、行政、地域が一緒になってやっついていかないと実現できない。

○パネルディスカッションでの要点

82 歳と 80 歳の高齢ドライバー、警察本部・署の担当者、自動車教習所の教官、市担当課長がパネラー

- ・運転は適格性があれば、免許の上限は無い。
- ・県内で 5 万人が認知検査を受けているが、3%1500 人が診断受診。この内、20%300-400 人が認知症と診断され、自主返納をしない 50 人が免許取消となっている。
- ・運転をやめればぼけると言われるが、運転をやめると足が一番の問題。

と課題は討議されたが、打開策については話が及ばず。

○参加しての感想

- ・駒ヶ根市のデマンドタクシーにも課題があり、複合的な施策が必要ではないか。
- ・免許返納後の足については、社会全体の大きな課題である点では、誰しも納得することができるが、より具体的な対策が必要ではないか。
- ・地域による共助の具体化が必要ではないか。

と感じました。

～以上～